

CONTENTS

教師海外研修概要	1
ブラジルで見たこと、感じたこと	3
研修国概要	5
国内研修	
第一次事前研修	6
第二次事前研修	7
事後研修	8
海外研修	
海外研修日程【ブラジル】	9
訪問先所感	10
同行者より	14
授業実践	
小学校	
橋本 花織（京都市立岩倉南小学校）	15
森 泰紀（京都市立新町小学校）	21
梶村 杏子（神戸市立出合小学校）	27
山口 敦司（宝塚市立美座小学校）	33
中学校	
藤原 なつみ（宇治市立西小倉中学校／英語）	39
田中 尚恵（大阪市立難波中学校／理科）	45
山本 紗哉加（奈良市立都跡中学校／社会）	51
木村 哲彦（かつらぎ町立笠田中学校／英語）	57
中等教育学校	
福岡 奈緒（兵庫県立芦屋国際中等教育学校／英語）	63
教育委員会事務局	
山崎 陽子（高石市教育委員会事務局）	69
JICA関西 開発教育支援事業のご案内	75

教師海外研修概要



JICA の開発教育支援

グローバル化が進む現代では、地球規模で多様な課題を抱えています。貧困・環境・人権などの課題を抱える地球が、より持続可能な方向へシフトするにはどうしたらいいのでしょうか。

持続可能な開発のための教育(ESD)にも挙げられているように、その解決に向けての鍵の1つは「教育」にあると考えられています。

相互依存が深まる世界において、開発途上国が直面する多様な課題を自分たち自身の問題として考え、その解決のために自ら行動に移すことのできる人間を育成するために、開発教育・国際理解教育への関心はますます高まるばかりです。

JICA 関西では、開発途上国における技術協力事業、資金協力事業で培った経験、人材やネットワークを活用し、国際協力出前講座、JICA 関西訪問、教師海外研修、開発教育指導者研修等の開発教育支援事業を関西地域で広く実施し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。教師海外研修は、その事業の一つです。



教師海外研修とは……

I. 研修目的

開発教育・国際理解教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの教員に、JICA が協力を行っている開発途上国での10日程度の海外研修に、参加していただきます。

帰国後は、海外研修で得た経験を、参加した先生自身が自分の教室で子ども達に伝えています。さらに、その経験をそれぞれの地域において、広く発信していただき、開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。



II. 教師海外研修の流れ

※（ ）内の日程は 2015 年度の日程です。2016 年度以降の日程は H P をご確認ください。

募集・選考

- 募集（4/1-5/11）
- 書類選考（5月中旬）
- 選考結果通知（5月下旬）
- 面接選考（5/31）
- 選考結果通知（6月中旬）



国内事前研修

- 第一次事前研修（6/14）
- 第二次事前研修（7/4-5 1泊2日）



開発教育指導者研修等に自主的に参加し教育力向上！

※ JICA 関西でも、関西各地で以下のようなセミナーを実施していますので、国内事前研修に加えて、参加を推奨しています。

- 国際教育教材体験フェア in 滋賀（6/20）
- 開発教育入門セミナー（6/28）
- 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー（8/10、11）
- 国際教育セミナー（8/4、8/6）



海外研修

- ブラジル（7/29-8/12）（8/23）までに海外研修報告書提出



国内事後研修

- 事後研修（8/23）



勤務校における授業実践

- 9月-12月



授業実践報告書提出

- （12/14）締切



教師海外研修報告会

- （2/7）

🍷 ブラジルで 見たこと 感じたこと



▼ 交番制度が導入され、昔は怖くて近寄りがたかった警察官が、子どもたちにとって一番安心できる存在に変わった。【田中】

▲ ブラジルのバスにも優先座席があるんだな…と、そこには見慣れぬマークが。後日調べてみたが、肥満が深刻な問題になっているらしい。ブラジルの社会問題を垣間見た。【山本】



▼ サントス厚生ホームで、一緒に歌わせていただいた「ふるさと」。「こころざしをはたして いつの日にか帰らん」日系1世・2世の方々は、一体どんな気持ちで歌われるのだろうか。子どもたちと共に考えたい。【橋本】



◀ CAMTA加工工場に出荷されていた実。これがアサイー、今ではトマスの主要生産物に。日本で人気の飲み物。ここでベスト状にされ日本に運ばれている。【木村】

▼ ブラジルを代表する料理、シュハスコ! 満腹になった
らテーブルの上の札を緑から赤に変えます。【藤原】



▲ 移民の碑。日本人としてこの場所に降り立った移
民の方の気持ちを考えることができた。【森】



◀ 壁に直接かいているブラジル人の大らかさに
感動!! 【山崎】

▶ トメアスの土は赤っぽい色をしている。日系一世が土
壌を整えた苦勞が現場へ行くと伝わってくる。【福岡】



◀ ブラジル宇宙開発研究所において違法伐採防
止活動や日本の衛星技術貢献などについて学
ぶ。広大なアマゾンを守るために、所有地にお
いても伐採規定を守らないといけないというのが
意外だった。【梶村】



研修国概要



ブラジル連邦共和国 (Federative Republic of Brazil)



- 首 都：**ブラジリア
- 面 積：**851.2 万平方キロメートル（日本の 22.5 倍）
- 人 口（ブラジル地理統計院推定、2014 年）**
：2 億 40 万人
- 民 族（ブラジル地理統計院 2010 年）**
：欧州系 48%、アフリカ系 8%、東洋系 1.1%、混血 43%、先住民 0.4%
- 言 語：**ポルトガル語
- 宗 教（ブラジル地理統計院 2010 年）：**カトリック約 65%、プロテスタント約 22%、無宗教 8%
- 政 体：**連邦共和制（大統領制）
- 主要産業：**製造業、鉱業（鉄鉱石他）、農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他）
- 名目 GDP（2014 年、IMF）：**2 兆 3,461 億米ドル
- 一人当たりの名目 GDP（2014 年、IMF）：**11,613 米ドル
- 失業率（ブラジル地理統計院 2015 年 2 月）** 5.9%
- 通 貨：**レアル
- 日本の援助実績（ODA 国別データブック 2014）：**
- (1) 有償資金協力（2011 年度、E/N ベース）499.96 億円
 - (2) 無償資金協力（2013 年度、E/N ベース）0.93 億円
 - (3) 技術協力（2013 年度、JICA ベース）20.16 億円
- 主要援助国（2012 年支出純額、OECD/DAC）：**
- (1) フランス（863 百万ドル）
 - (2) ノルウェー（214 百万ドル）
 - (3) ドイツ（152 百万ドル）
 - (4) 英国（75 百万ドル）
 - (5) 日本（44 百万ドル）
- 在留邦人数：**54,377 名（2014 年 10 月現在）（長期滞在者：3,688 人、永住者：50,689 人）
（日系人総数推定 約 160 万人）
- 在日ブラジル人数：**約 18 万人（2014 年 6 月在留外国人統計）
（2015 年 8 月 12 日付外務省ホームページより）

国内研修



第一次事前研修

(1)日時:2015年6月14日(日)10:00-17:00

(2)目的:①JICA事業(技術協力・有償資金協力・無償資金協力)についての理解を深める。
 ②教師海外研修全体の趣旨・目的を理解し、目的意識を明確にする。
 ③海外研修の概要を知り、研修全体の理解を深める。
 ④開発教育に関する知見を深める。
 ⑤派遣国の知見を深める。

(3)プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:30	オリエンテーション ●あいさつ ●関係者紹介・参加者自己紹介 ●JICA 事業概要説明 ●教師海外研修の全体概要説明 ●現地スケジュールの説明 ●渡航関連事務手続き	JICA 関西
11:30-12:30	ワークショップ① ●開発教育とは? ●参加型学習手法でアイスブレイキング(地球ビンゴ等)	JICA 関西 市民参加協力課 三浦 禎子
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-15:30	ワークショップ② ●参加型学習の手法の実践 ●様々な基本的なワークショップを通して、その効果や特徴について学ぶ	特定非営利活動法人 開発教育協会 佐藤 友紀 氏
15:30-16:30	JICA ボランティアの目を通して見たブラジル ●日系社会シニアボランティア活動について ●ブラジルの特徴(生活、文化、特徴など) ●日系人社会の特徴について	日系シニア海外ボランティア※ (ブラジル・文化) 山田 裕子 氏
16:30-17:00	事務連絡等	JICA 関西

日系シニア海外ボランティア:中南米の日系社会で自分のもっている技術や経験を活かしてみたいと言う強い意志を持った方々を派遣し、日系人、日系社会の人々と、ともに生活・協働しながら中南米地域の発展に協力していただくJICA ボランティア。

参加者の声

◇ JICA の沿革や組織全体のお話が聞けて、この研修の目的や私たちがすべきことがよくわかりました。
 ◇ グループの方々と難しい課題について議論し、考える過程がおもしろかった。1つの答えを導くことが大切なのではなく、その途中が開発教育ではとても重要になることを体感して気づいた。

◇ 開発教育と国際理解教育のちがいや、開発の意味を学べました。「引き出す」というキーワード、心に残りました。

◇ 参加型の学習をすることで、グループの人たちと考えを交流でき、様々な考え方に触られました。

◇ 現地での教材集めのポイントがとても勉強になりました。写真を撮るにも、後々授業でどう使うかをイメージして撮るとのこと、気をつけたいと思います。

◇ 実践できそうな手法をたくさん学べたように思います。今後の参考になりそうです!

◇ 知らないブラジルの一面を話してくださったので良かったです。私もトマスで日系の方から多くの話を聞きたいと思いました。





第二次事前研修

(1)日時:2015年7月4日(土)10:00 - 5日(日)17:00

- (2)目的:①派遣国に関する知見を深める。
 ②教材・手法の活用について学ぶ。
 ③研修のテーマを設定し、実践授業をイメージする。
 ④参加教員同士の研修目的の共有を図り、事前準備について明確にする。
 ⑤海外研修までの準備(役割分担・渡航手続き等)を行う。



(3)プログラム内容

[第1日目:7月4日]

時間	内容	講師
10:00-11:00	渡航ブリーフィング ●研修日程、訪問先について	JICA 関西
11:00-12:30	ブラジルの方から見たブラジルと日本 ●ブラジル基本情報、特徴 (人や文化、環境等の多様性等) ●多文化共生の観点で見るブラジルの地域差 ●日本人移民、日系人定住者について ●ブラジルの現状と課題 ●リオオリンピックの開催、新興国となったブラジルの経済や人々の生活の変化等	天理大学 国際学部 准教授 野中 モニカ 氏
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-15:30	過去参加教員による報告 ●教師海外研修の経験に基づく授業実践報告	《ファシリテーター》川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 《報告者》神戸市立糺台小学校 梶本 朋子 氏
15:30-17:30	2014 年度参加教員とのディスカッション ●実践授業に向けての教材収集のヒント ●海外研修に関する質疑応答	《ファシリテーター》 山中 信幸 氏 2014 年度参加教員
17:30-19:00	夕食・休憩	
19:00-21:00	グループワーク 役割分担、訪問先での参加型研修の意味を理解し、準備を進める。 ●日程確認 ●班分け、役割分担 ●研修実践案の作成	《アドバイザー》 山中 信幸 氏

[第2日目:7月5日]

時間	内容	講師
9:00-10:00	海外研修について(テレビ会議) ●ブラジル事務所事業概要説明 ●ブラジルへの開発協力 ●研修日程、訪問先について	JICA ブラジル事務所
10:00-12:30	ワークショップ① ●開発教育ワークショップ手法の習得	山中 信幸 氏
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-16:00	ワークショップ② ●授業実践に向けたカリキュラム作り ●研修成果を授業に取り入れる際の留意点について	山中 信幸 氏
16:00-17:00	渡航説明、事務連絡等 ●公用旅券及び航空券の手交、説明 ●出発までの予定及び帰国後のスケジュール ●報告書についての説明	郵船トラベル JICA 関西



事後研修

(1)日時:2015年8月23日(日)10:00 - 16:30

(2)目的:①海外研修で得られた教材を共有する。

②海外研修での経験を教材化し、授業で実践するためのカリキュラム作成。

③帰国後の教師海外研修ネットワークへの参加促進。

(3)プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:30	資料整理・教材共有 ●海外研修プログラムの評価 ●参加者間での振り返り ●参加者間での体験の共有	JICA 関西 山中 信幸 氏
11:30-12:30	実践授業について ●海外での体験を教材化するためのヒント ●教師海外研修で得られた素材の整理方法 ●長期的に海外研修での体験を教育現場で活かすには	京都市立 堀川高等学校 大槻 一彦 氏
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-16:00	実践授業計画作成 ●海外研修の素材を使って、実践授業に向けた指導案を作成する	山中 信幸 氏
16:00-16:30	事務連絡等	JICA 関西

参加者の声

- ◇改めて話す中で、これまで聞けなかった話を聞けたり、自分が話すことで思い出しながら、はっきりとイメージすることができました。
- ◇開発教育の基礎となるお話、手法のあれこれまでこれから授業を作っていく上で大切な視点を与えていただきました。
- ◇強い信念はあっても大きな成果をもとめがちであるが、「小さな成果を！」教えて頂き少しずつで良いのだ！と感じた。また、伝えたいことがたくさんあるが、こちらの自己満足にならないようにしようと思った。
- ◇「一時間で伝えたいことは一つ」という大切な視点を教えていただきました。今のアイデアでは盛りこみすぎだから、考え直さねば…と思います。
- ◇架空の人間の周りの環境要因を考えて、問題をあらいだしていくことはどの国の社会背景としてもあることだと感じた。でも、ラベリングの話は自分の考えや価値観にとらわれず、視野を広げることの大切さを学ぶことができた。
- ◇ワークショップ形式で、今までやったことのない方法もあり、たいへん参考になりました。今度の授業づくりにメンバーと話ができたのも大変よかったです。

